

国語科

I 国語科の学習目標

- (1) 言語能力を高めることによって、思考力を伸ばし、心情を豊かにし、豊かな人間性を身につける。
- (2) 文章表現の読解を通して、他者の考え方を理解するとともに、自己の考えを確立し、生きる上での判断力を身につける。
- (3) 優れた国語表現を学ぶとともに、自分の目ではっきりと対象を捉え、それを国語で適切に表現する力を身につける。
- (4) 現代日本語の正しい知識を学び、適切に運用する技能を身につける。
- (5) 古典に描かれた世界を鑑賞することによって、日本の伝統文化に興味・関心を持ち、古の人の価値観・心情を理解する。

II 国語科の6年間の科目構成と学習内容

		「科目」と学習内容	発展的な内容、特色ある活動、関連する行事等
中学段階	1年	思考力・判断力・表現力 ・言語活動の充実による思考力の育成 ・「書くこと・話すこと」を含めた表現力の育成 ・自己の考えに基づく判断力の育成 知識技能の取得 ・現代日本語の知識・技能の充実 ・古文・漢文領域の知識の習得 ・楷書の基本 学びに向かう力・人間性 ・現代の日本文化、古典文化に興味を持つ。 ・読書活動	発展的内容 ・識字能力の基礎（漢検4～3級レベル） ・口語文法の基礎(単語と品詞、活用のある自立語) ・資料の活用 口語文法 古文の知識 竹取物語 漢文の知識 中国の名句・名言、故事成語
	2年	思考力・判断力・表現力 ・言語活動の充実による思考力の育成 ・「書くこと・話すこと」を含めた表現力の育成 ・他者の考えを理解し、問題を解決する判断力の育成 知識技能の取得 ・現代日本語の知識・技能の充実。 ・古文・漢文領域の知識の習得。 ・行書の基本 学びに向かう力・人間性 ・現代の日本文化、古典文化を理解する。 ・読書活動	発展的内容 ・識字能力の充実（漢検3～準2級レベル） ・口語文法の基礎（助詞・助動詞） ・文語文法の基礎（単語と品詞、活用のある自立語） ・ポスターセッション 口語文法 文語文法 枕草子、平家物語、徒然草 百人一首① 漢詩文の世界 漢詩
	3年	思考力・判断力・表現力 ・言語活動の充実による思考力の育成 ・「書くこと・話すこと」すべてを含めた表現力の育成 ・他者と話し合い、問題を解決する判断力の育成 知識技能の取得 ・現代日本語の知識・技能の充実。 ・古文・漢文領域の知識の習得。 ・生活を豊かにする文字 学びに向かう力・人間性 ・今昔の日本人の価値観・美意識を理解する。 ・読書活動	発展的内容 ・識字能力の充実（漢検準2～2級レベル） ・文語文法の基礎（助動詞、助詞、副詞） ・訓点、再読文字 ・プレゼンテーション 文語文法 和歌、奥の細道、百人一首②→百人一首大会 漢文の世界 論語、漢楚の興亡
高校段階	4年	〈国語総合〉 現代文領域 ・読解の充実、応用 国語としての教養の充実 古文領域 ・古文読解の充実 文語文法の完成（2年3年の復習、敬語法） 漢文領域 ・漢文訓読の充実	・識字能力の充実（漢検2級レベル） ・詩歌の歴史（万葉～近代短歌・近代俳句・近代詩まで） （日本文化概論の前段階として） ・文語文法の充実 ・語彙力の充実（後期） ・句法の学習 ・資料の活用 百人一首、基本漢文 日本文学史、古文単語集、現代文入試問題集基礎編
	5年	〈現代文〉 ・読解の充実、応用 ・言葉の力の充実 〈古典〉 古文領域 ・古文読解の充実(徒然草、更級日記等抄本講読) 漢文領域 ・漢文訓読の完成	近現代文学史（除詩歌の歴史） ・語彙力の充実、問題演習 ・古典文学史（除詩歌の歴史） ・訓点、再読文字、句法等の演習 ・資料の活用 入試頻出現代語、古文抄本、古文入試問題集基礎編
	6年	〈現代文〉（文系・理系） ・読解の応用 ・問題解決能力の向上 〈古典講読〉（文系） 古文領域 ・古文読解の充実、応用（大鏡、源氏物語等抄本講読） 漢文領域 ・漢文訓読の充実、応用	〈自由選択科目〉 ・共通テスト入試問題演習（文系・理系） ・古漢入試問題演習（文系） ・現代文入試問題演習（文系） ・小論文演習（文系・理系）

* 6年生の自由選択科目は受講希望者数によって変更があり得ます。

教科名 国語科
 科目名 国語
 対象 1学年全員

I 学習到達目標

- 1 日本語能力に基づく思考力・判断力・表現力の習得。
- 2 日本語に関する知識・技能の習得。日本語・日本文化に興味・関心を持つ。

II 授業の進め方(授業形態等)

- 1 一斉授業 2 グループワーク 3 ペアワーク

III 教科書・補助教材

教科書 光村図書「国語 1年」 教育出版「中学書写」
 副教材 浜島書店「国語便覧 東京都版」 とうほう「解いて覚える中学生の文法」 文英堂「原色小倉百人一首」
 京都書房「小倉百人一首暗唱シート」 とうほう「級別漢字クラブ」

IV 学習計画

月	学 習 内 容	A「知識・技能」 B「思考力・判断力・表現力」 C「主体的に学習に取り組む態度」		授業 時数	備 考	
		考 査	学 習 内 容			
春休み	宿 題		「小学校国語のまとめ」			
一 学 期	4 1 学期 中 間 考 査		気持ちが伝わるように、声に出して読む。 教P14「野原はうたう」 場面や登場人物の描写に着目し内容を読み取る。 教P22「シンシユン」 集めた情報を整理する。 伝えたいことを明確にして書く。 教P34「情報を整理して書こう」 書写教P14「楷書で書こう」	文語文にふれる 校歌 古文の言葉の響きや調子に読み慣れる 教P154「いろは歌」 古典の作品と自分とのつながりを考える 教P156「古典の世界」	2 4	
	6 1 学期 期 末 考 査		文章と図を照らし合わせ語句の意味を捉える。 教P42「ダイコンは大きな根？」 筆者の考えをもとに自分の生活を振り返ることで、 ものの見方や考え方を広げる。 教P46「ちょっと立ち止まって」 話し方を意識して話す。 伝えたいことを明確にして話の構成を考える。 教P54「話の構成を工夫しよう」 書写教P24「楷書と仮名を調和させて書こう」	仮名遣いに注意しながら音読し、 古典に読み慣れる 人物の行動や思い、人柄を読みとる。 教P159「蓬莱の玉の枝」 口語のきまり(品詞)を知る 副P28「単語の種類」	3 0	
夏休み 宿 題	宿 題 テ ス ト		教P96「大人になれなかった弟たちに……」 副「級別漢字クラブ」	口語文法の復習	1	
二 学 期	9 2 学期 中 間 考 査		場面や登場人物の描写に着目し読み深める。 教P106「星の花が降るころに」 筆者の考えと根拠の関係を理解する。 教P126「『言葉』をもつ鳥、シジュウカラ」 資料を引用して根拠を明確にして工夫して書く。 教P138「根拠を示して説明しよう」 書写教P40「行書で書いてみよう」	漢文特有の言い回しに読み慣れる 訓読の決まりを知る 教P170「今に生きる言葉」 口語のきまり(名詞など)を知る 副P36「活用しない自立語」	1 3	
	10 2 学期 期 末 考 査		場面の展開に沿って、登場人物の心情の変化を捉え、 作品を読み深める。 教P146「話題や展開を捉えて話し合おう」 意見と根拠を明確にして話し合う。 書写教P129「書き初めを書く」	口語のきまり(動詞)を知る 副P52-63「活用する自立語」 日本の伝統的な話芸に触れる 教P296「言葉としぐさの伝統芸能」	4 5	
冬休み 宿 題	宿 題 テ ス ト		教P288「幻の魚は生きていた」 副「級別漢字クラブ」 書写「書き初め」	口語文法の復習	1	
三 学 期	1 3 学期 学 年 末 考 査		教P198「少年の日の思い出」 登場人物の描写に着目し作品を読み深める。 教P278「坊っちゃん」 書評を書き、自分の考えを広げる。 教P186「助言を自分の文章に生かそう」	仮名遣いに注意して音読し古典に慣れる 「歌ゆえに命を失ふこと」 口語のきまり(形容詞・形容動詞)を知る 副P64-69「活用する自立語」 仮名遣いに注意して音読し古典に慣れる 「百人一首を味わう」	2 6	
					140	
評 価	1・2学期は2回、3学期は1回の100点満点の定期テスト、および夏季・冬季の休みのあとに宿題テストを行い、 普段の提出物や発表の様子などとともに総合評価を行う。					

社会科

I 社会科の学習目標

◆地理・歴史分野

- (1) 我が国及び世界の形成と歴史的過程について理解と認識を深める。
- (2) 我が国及び世界の生活と文化の地域的特色について理解と認識を深める。
- (3) 地理や歴史を学習することを通して、多角的・多面的な思考力を培い国際社会に主体的に生きる力を養う。
- (4) 民主的、平和的な国家・社会の一員として、必要な自覚と資質を養う。

◆公民分野

- (5) 広い視野に立って、現代社会について主体的に考察し、理解を深める。
- (6) 人間として望ましい在り方について学び、主体的に意義ある人生を送れるようにする。
- (7) 民主的、平和的な国家・社会の有為な形成者をめざす。
- (8) 政治的教養を高め、個人の尊厳を重んじ人格の完成をめざす実践的意欲を培う。

II 社会科の6年間の科目構成と学習内容

		「科目」と学習内容	発展的な内容、特色ある活動、関連する行事等
中学段階	1年	<ul style="list-style-type: none"> ◆地理分野 ・世界の姿 ・世界各地の人々の生活と環境 ・世界の諸地域 ◆歴史 ・原始と古代の日本 ・中世の日本 	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsを意識した課題解決型の授業の展開（貧困と教育、環境問題と経済成長など）。 ・日本と世界とのつながりを意識したテーマ型の討論・探究活動の展開 ・総合「上野・浅草」探究 ・世界のさまざまな地域の調査 ・歴史討論 ・ノートの作り方指導
	2年	<ul style="list-style-type: none"> ◆地理分野 ・日本の姿 ・世界と比べた日本の地域的特色 ・日本の諸地域 ・身近な地域の調査 ◆歴史 ・中世の日本 ・近世の日本 ・近代の日本と世界 	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな世界地図からとらえる世界の認識。 ・地形図、ハザードマップを活用し地域の防災についての課題解決型授業。 ・日本の領域と領土問題についての探究活動。 ・日本に視点をおいたSDGsを意識した課題解決型の授業の展開。 ・言語能力を高める活動を入れた歴史学習(時代考証スピーチ)・歴史討論
	3年	<ul style="list-style-type: none"> ◆歴史 ・近代の日本と世界 ・二度の世界大戦と日本 ◆公民 ・現代社会 ・人権の尊重と日本国憲法 ・国民主権と民主政治 ・私たちの暮らしと経済・国際社会 	<ul style="list-style-type: none"> ・史資料の読解 ・写真資料の読み取り ・地図の読み取り ・協同的論述課題学習 ・社会問題についての討論 ・時事問題
高校段階	4年	《地理総合》【全員必修】 ・地図と地理情報システム活用（GIS） ・国際理解と国際協力 ・防災と持続可能な社会の構築（ESD） 《歴史総合》【全員必修】 「歴史の扉」、「近代化と私たち」、「国際秩序の変化や大衆化と私たち」、そして「グローバル化と私たち」の4項目から近現代の歴史を考察	<ul style="list-style-type: none"> ・大学入試問題の活用 ・図・表・写真資料の読み取り ・主体的、実践的な課題解決能力の育成
	5年	《世界史探究》 近代ヨーロッパの成立～帝国主義とアジアの民族運動 《日本史探究》日本文化のあけぼの～武家社会の成長 《公共》「公共の扉」、「自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」、「持続可能な社会づくりの主体となる私たち」の項目ごとに現代社会の諸課題を捉え、他者との議論を通じて多面的・多角的に考察する。	<ul style="list-style-type: none"> ・世界史の中の日本史の展開 ・史資料の読解 ・地図の読み取り ・写真資料の読み取り
	6年	《地理探究》【文系必修選択】世界の地形、世界の諸地域 《世界史探究》【文系必修選択】 諸地域世界の交流～アジア諸地域の動揺 《日本史探究》【文系必修選択】 日本文化のあけぼの～幕藩体制の動揺 《地理探究》《世界史探究》《日本史探究》【自由選択】 共通テスト問題演習（地歴・公民科2科目目選択者用） 《政治経済》【文系理系共通履修】 民主政治の基本原則～現代社会の諸課題 《政治経済》【文系理系自由選択】共通テスト問題演習 《倫理》【文系理系自由選択】源流思想、西洋思想、日本思想、現代社会の諸課題	<ul style="list-style-type: none"> ・大学入試問題を活用した図・表・写真資料などの深い読み取り ・多面的、多角的な思考方法と社会的な見方、考え方 ・持続可能な社会を形成する個人としての社会参画意識

* 6年生の自由選択科目は受講希望者数によって変更があり得ます。

教科名 社会科
 科目名 地理・歴史
 対象 1学年全員

I 学習到達目標

- 1 社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、日本の国土と歴史に対する理解を深める。
- 2 様々な資料を適切に活用して地理的事象を多面的・多角的に考察し、公正に判断するとともに、適切に表現する能力や態度を身につける。
- 3 各時代の特色を世界の歴史を背景に理解し、それを通して我が国の伝統と文化の特色を広い視野に立って見る力を養う。

II 授業の進め方(授業形態等)

- 1 一斉授業
- 2 グループワーク
- 3 討論

III 教科書・補助教材

教科書 (地理的分野)「新しい社会 地理」東京書籍 (歴史的分野)「中学歴史 日本と世界」山川出版社
 (地図帳)「中学校社会科地図」帝国書院
 副教材「アドバンス中学地理資料東京都版」帝国書院 「グラフィックワイド歴史」東京法令出版
 「中学必修テキスト地理」文理 「新中学問題集 歴史I」教育開発出版

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容			授業 時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容		
一 学 期	4	1 学期 中 間 考 査	◆地理的分野 世界の姿 P6～19	◆歴史的分野 第1章歴史との対話 P5～9	◆地理的分野 アドバンス P2～13 必修テキスト P4～15 ◆歴史 人類の出現・古代文明 P26～35	17
	5		・地球の姿を見よう ・世界のさまざまな国々 ・地球上の位置を表そう ・地球儀と世界地図を比べてみよう	第2章古代までの日本 1節世界の諸文明 P16～25		
	6	1 学期 期 末 考 査	日本の姿 P20～32 世界各地の人々と生活と環境 P34～53	2節日本文化のあけぼの P28～35 3節律令国家の成立 P36～43	◆地理的分野 アドバンス P14～45 必修テキスト P16～41 ◆歴史 縄文・弥生・古墳・奈良時代 P36～57	27
	7					
	夏休み 宿 題		税の作文			
二 学 期	9	2 学期 中 間 考 査	世界の諸地域 ・アジア州 P58～73	4節 貴族政治と国風文化 P50～55	◆地理的分野 アドバンス P46～69 必修テキスト P42～55 ◆歴史 平安・鎌倉時代P58～79	25
	10			第2章中世の日本 第1節中世社会の成立 P64～75		
	10	2 学期 期 末 考 査	世界の諸地域 ・ヨーロッパ州 P74～87	2節武家社会の成長 P82～88	◆地理的分野 アドバンス P70～85 必修テキスト P56～71 ◆歴史 鎌倉・室町時代P80～93	37
	11		・アフリカ州 P88～99			
	冬休み 宿 題 宿 題 テ ス ト					
三 学 期	1	3 学期 学 年 末 考 査	世界の諸地域 ・北アメリカ州 P100～113	第4章近世の日本 1節一体化へ向かう世界 P104～109	◆地理的分野 アドバンス P86～98 必修テキスト P72～93 ◆歴史 世界・近世P94～99	34
	2		・南アメリカ州 P116～125 ・オセアニア州 P126～139			
					140	
評 価		学期毎の評価、学年末の評定については、以下の資料を用いて、社会的事象、資料活用についての「知識・技能」、社会的な「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」、の3つの観点から総合的に評価を行う。 ① 定期考査(各学期、年間5回) ② 確認テスト(単元に対応) ③ 提出物(宿題、ノート、課題プリント)				

数学科

I 数学科の学習目標

- (1) 数量や図形などに関する基礎的な概念や原理、法則の理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を習得する。
- (2) 事象を数学的に考察する能力を高めながら、数学的な見方・考え方を育む。
- (3) 数学的な活動の楽しさ、数学的な見方や考え方のよさを知り、それらを進んで活用する態度を育てる。
- (4) 6年間の学習を系統的にまとめ、それらを実践的に活用できるよう、多面的な見方・考え方や論理的に考える力を養い、問題解決能力を高めていく。

II 数学科の6年間の科目構成と学習内容

		「科目」と学習内容	発展的な内容、特色ある活動、関連する行事等
中学段階	1年	[代数] 正の数と負の数（四則根号算、仮平均） 式の計算（文字式、多項式の計算） 方程式・不等式（1次方程式、連立方程式、1次不等式） 1次関数（比例、反比例、1次関数） データの活用（ヒストグラム、代表値、箱ひげ図） [幾何] 平面図形・空間図形 （作図、いろいろな立体、立体の切断）	・習熟度別少人数制授業（2クラス3展開中心） ・発展的な内容 [代数] 単項式の乗除、文字式の利用、連立方程式、連立方程式の利用、1次関数（中2） 1次不等式、連立不等式、その利用（数I） [幾何] 図形の性質と合同（平行線と角）（中2） ・関連する行事 数学検定（希望者）
	2年	[代数] 式の計算（展開・因数分解） 平方根（根号を含む式の計算、有理数と無理数） 2次方程式（2次方程式の解き方、その応用） 関数 確率と標本調査（場合の数、確率の計算、標本調査） [幾何] 図形の性質と合同（平行線と角、多角形の内外角） 三角形の合同、三角形と四角形（二等辺三角形、平行四辺形） 図形と相似（三角形の相似、相似な図形の面積比・体積比） 線分の比と計量（線分の比と面積比）、円（円周角の定理）	・習熟度別少人数制授業（2クラス3展開中心） ・発展的な内容 [代数] 展開・因数分解、2次方程式（中3・数I） 平方根、有理数と無理数（中3） 順列と組合せ、確率（数A） [幾何] 図形の相似と面積比・体積比（中3・数A） メネラウス・チェバの定理（数A） ・関連する行事 数学検定（希望者）
	3年	[代数] 数と式（多項式の展開・因数分解の復習） 関数（のグラフと応用、最大・最小） 方程式・不等式（2次方程式・不等式の解き方） [数学I] 数と式（多項式の展開、因数分解、実数） 2次関数（2次関数の最大・最小、2次方程式・不等式） 図形と計量（三角比） [幾何] 円（方べきの定理、2つの円） 三平方の定理（平面図形、空間図形） * 中学3年間のまとめ（高校入試問題演習）	・習熟度別少人数制授業（一部） ・発展的な内容 [代数] 平方根の計算（中3） 多項式の計算（数I・数II） [数学I] 2次関数、2次不等式（数I） 三角比（数I） [幾何] 円周角の定理、内接四角形、接線（数A） ・関連する行事 数学検定（希望者）
高校段階	4年	[数学I] 2次関数（2次関数の最大・最小、2次方程式・不等式） 図形と計量（三角比の拡張、正弦定理・余弦定理） データの分析（分散・標準偏差、相関係数、仮説検定） [数学A] 場合の数・確率（順列・組合せ、反復試行、条件付き確率） 図形の性質（三角形の五心、円の性質、作図、空間図形） 数学と人間の活動 （倍数・約数、不定方程式、n進法、整数問題） [数学II] 式と証明（二項定理、相加・相乗の関係） 複素数と方程式（解と係数の関係、剰余の定理・因数定理） 図形と方程式（点と直線、円の方程式、軌跡と領域）	・習熟度別少人数制授業を実施（予定） ・発展的な内容 [数学I] 平均・分散の変数変換（数B） 仮説検定（数B） いろいろな式（数II） [数学A] 整数、方程式（数II） [数学II] 複素数と方程式（数II） 図形と方程式（数II） * 各クラスで大学入試問題演習を適宜実施。
	5年	[数学II] いろいろな関数（三角関数、指数関数・対数関数） 微分法と積分法（微分係数、導関数、不定積分、面積） [数学B] 数列（数列とその和、漸化式、数学的帰納法） 統計的な推測（仮説検定、確率分布） [数学C] ベクトル（平面ベクトル、空間ベクトル） （理系のみ）複素数平面（極形式、ド・モアブルの定理） [数学III]（理系） いろいろな関数（分数関数、無理関数、逆関数） 極限（数列の極限、関数の極限）	・習熟度別少人数制授業を実施（予定） ・発展的な内容 [数学II] 積・商の微分、合成関数の微分（数III） 理系のみ 分数関数・無理関数・逆関数（数III） 数列の極限・関数の極限（数III） [数学B] 理系：複素数平面（数III） 文系：数学IAIIB問題演習 * 各クラスの進路に応じた大学入試問題演習を実施。
	6年	[数学C] 式と曲線（2次曲線、媒介変数表示と極座標） [数学III]（理系） 微分法（三角関数・指数関数・対数関数の微分） 微分法の実用（導関数の応用、速度・加速度） 積分法（不定積分の基本性質、置換積分法、部分積分法） 積分法の実用（面積、体積、曲線の長さ） [数学II]（文理系） 国公立2次・私大を志向した数学IAIIB演習 [自由選択科目]（文理系、文系） 国公立2次・私大を志向した数学IAIIB演習	・生徒の能力や適正、進路希望に応じた選択履修を実施。 [必修科目] 数学III（理系：国公立・私大2次対策） 数学II（文理系：国公立・私大2次対策） [自由選択科目] 数学演習α（文理系、文系） 数学演習β（文理系、文系） 数学演習γ（文理系、文系）

* 6年生の自由選択科目は受講希望者数によって変更があります。

教科名 数学科
 科目名 **数学**
 対象 1学年全員

I 学習到達目標

- 1 数学の中学校段階における基礎・基本となる事項の知識と技能を習得する。
- 2 数学的な見方や考え方のよさを知るとともに、それらを活用する態度を養う。
- 3 数学的活動を通して、数学を学ぶ楽しさを実感し、数学に関する興味・関心を高める。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 総授業数 年間授業時数 175時間
- 2 授業形態 習熟度別少人数制 2クラス3展開中心

III 教科書・補助教材

教科書 「中学数学1」教育出版
 補助教材「体系数学1代数編」「体系数学1幾何編」「体系数学2代数編」数研出版 「新中学問題集 発展 数学1・2」教育開発出版
 「体系問題集数学1代数編〔発展〕」「体系問題集数学1幾何編〔発展〕」「体系問題集数学2代数編〔発展〕」 数研出版

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容		授業時数	備考
		考 査	「体系数学」の学習内容		
一 学 期	春休み 宿題	宿題 テスト	小学校までのまとめ、中学数学の基礎準備、 教科書の予習	1	
	4	1学期 中間 考 査	『体系数学1 代数編』P6～39 第1章「正の数と負の数」 1 正の数と負の数 2 加法と減法 3 乗法と除法 4 四則の混じった計算	『体系問題集 数学1 代数編』 完成ノート 正の数と負の数 ／式の計算	10
	5		『体系数学1 幾何編』P6～17 第1章「平面図形」1 平面図形の基礎 2 図形の移動	『体系問題集 数学1 幾何編』 完成ノート 平面図形／空間図形	20
	6	1学期 期 末 考 査	『体系数学1 代数編』P40～85 第2章「式の計算」 1 文字式 2 多項式の計算 3 単項式の乗法と除法 4 式の値 5 文字式の利用 第3章「方程式」 1 方程式とその解 2 1次方程式の解き方 3 1次方程式の利用	『体系問題集 数学1 代数編』 完成ノート 正の数と負の数 ／式の計算	20
	7		『体系数学1 幾何編』P18～35 第1章「平面図形」 3 作図 4 面積と長さ	『体系問題集 数学1 幾何編』 完成ノート 平面図形／空間図形	15
	夏休み 宿題	宿題 テスト	夏期休業課題（1学期の復習）、体系問題集等、 教科書の予習	1	
二 学 期	9	2学期 中 間 考 査	『体系数学1 代数編』P86～125 第3章「方程式」 1 方程式とその解 2 1次方程式の解き方 3 1次方程式の利用 4 連立方程式 5 連立方程式の利用 第4章「不等式」 1 不等式の性質 2 不等式の解き方 3 不等式の利用 4 連立不等式	『体系問題集 数学1 代数編』 完成ノート 正の数と負の数 ／式の計算	20
	10		『体系数学1 幾何編』P40～47 第2章「空間図形」 1 いろいろな立体 2 空間における平面と直線	『体系問題集 数学1 幾何編』 完成ノート 平面図形／空間図形	15
	11 12	2学期 期 末 考 査	『体系数学1 代数編』P126～175 第5章「1次関数」 1 変化と関数 2 比例とそのグラフ 3 反比例とそのグラフ 4 比例・反比例の利用 5 1次関数とそのグラフ 6 1次関数と方程式	『体系問題集 数学1 代数編』 完成ノート 1次関数	20
			『体系数学1 幾何編』P48～55 第2章「空間図形」 3 立体のいろいろな見方	『体系問題集 数学1 幾何編』 完成ノート 平面図形／空間図形	12
	冬休み 宿題	宿題 テスト	冬期休業課題（1・2学期の復習）、体系問題集等、 教科書の予習	1	
三 学 期	1	学年末 考 査	『体系数学2 代数編』P112～133・146～147 第5章「データの活用」 1 データの整理 2 データの代表値 3 データの散らばりと四分位範囲	『体系問題集 数学2 代数編』 完成ノート データの活用 ／確率と標本調査	15
	2		第6章「確率と標本調査」2 事柄の起こりやすさと確率	『体系問題集 数学1 幾何編』 完成ノート 平面図形／空間図形	15
	3		『体系数学1 幾何編』P56～68 第2章「空間図形」 4 立体の表面積		10
				計 175 (5単位)	
評 価	学期毎の評価、学年末の評定については、以下の資料を用いて、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点から総合的に評価を行う。 ①定期考査（各学期、年間5回）、②宿題テスト（春休み、夏休み、冬休み、年間3回）、③確認テスト（単元に対応） ④提出物（課題ノート、課題プリント）、⑤学習の様子（授業参加態度、提出物状況、関心・意欲等）				

理科

I 理科の学習目標

- (1) 目的意識をもって実験・観察などを行い、探究心を高め、自然を主体的に学習する態度を育成する。
- (2) 実験・観察を通して探究活動を行い、科学的に自然を調べる方法を身につけ、問題解決能力を育成する。
- (3) 自然の事物・現象に見られる原理・法則等を理解し、自然について分析的、総合的に考察する能力を養い、科学的な自然観を育成する。
- (4) 科学や自然と人間とのかかわりの視点に立ち、自然を総合的にみる見方や、科学的なものの見方を育成する。

II 理科の6年間の科目構成と学習内容

	「科目」と学習内容	発展的な内容、特色ある活動、関連する行事等			
中学段階	1年 中学の内容を、物理・化学・生物・地学の4つの分野に分け、高校の内容との関連を図りながら、系統立てて学習させる。 《物理》光・音・力による現象 《化学》身のまわりの物質 《生物》いろいろな生物とその共通点 《地学》大地の変化	《物理》身近な物理現象について、高校の範囲まで踏み込んだ実験を扱う 《化学》物性および状態変化について、高校化学の内容を見直し発展的な内容も扱う。 《生物》ルーペや顕微鏡を用いた観察、シダ植物の生活環や無脊椎動物の分類もあつかう 《地学》地震波の伝わり方のちがひ、地球史、プレートテクトニクスを扱う			
	2年 《物理》電気の世界、運動とエネルギー 《地学》天気とその変化、地球と宇宙	《物理》静電気、運動とエネルギーについて、定量的に扱う 《地学》天気図の作成、月や惑星の表面の様子、宇宙の構造と進化			
	3年 《化学》化学変化と原子・分子、化学変化とイオン、科学技術と人間 化学と人間生活、物質の構成 《生物》生物の体のつくり、生命の連続性、自然と人間	《化学》 ・原子の構造について発展的に扱う。 ・物質の種類と化学反応式について発展的に扱う ・酸化還元反応について発展的に扱う。 ・科学技術と人間 ・物質の構成について、高校の化学基礎の内容を加味した内容を扱う。 《生物》 ・細胞は電子顕微鏡で観察した場合にのみ観察できる内容についても取り扱う ・酵素の特徴についても扱う ・遺伝は遺伝の法則についてくわしく取り扱う			
高校段階	4年 《物理基礎》必修 2単位 ・物体の運動とエネルギー ・さまざまな物理現象とエネルギーの利用 《化学基礎》必修 2単位 ・化学と人間生活(単体・化合物、熱運動と物質三態など) ・物質の構成(原子・周期表・分子・イオン・化学結合) ・物質の変化(物質質量、化学反応式、酸・塩基、酸化・還元など)	《物理基礎》 ・中学までに学んでいる自然の見方、探求の仕方を再確認し、その方法を用いて、身近な生活にみられる運動とエネルギー、熱、波、電気について学習する。 《化学基礎》 ・「物質の構成と化学結合」「物質の変化」の学習を通して、物質とその変化への関心を持ち、目的意識を持って観察・実験を行い、科学的に探求する態度を養う。			
	5年 《物理 理系I必修 4単位》 物理基礎の応用として、平面内の運動、剛体、運動量、円運動・単振動・惑星の運動、熱と気体、電磁気について学ぶ。 《生物 理系II必修 4単位》 「生命現象と物質」「遺伝子の働き」「生殖と発生」および「生物の環境応答」の分野の項目を学習する。 《化学基礎 文系・理系I 必修選択3単位》 「物質の構成と化学結合」「物質の変化」について中心に学習する。 《地学基礎 文系・理系 必修選択3単位》 「固体地球とその変動」「移り変わる地球」「大気・海洋」「宇宙の構成」「自然との共生」				
	6年 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:25%; vertical-align: top;"> 必修 物理演習 理系 2 単位 5年次の学習内容に引き続き、物理的な事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、物理学的に探究する能力と態度を育むと共に、基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を身につける。ここでは、電磁気、原子について学ぶ。 自選 物理 理系 2 単位 私大・国公立試験の入試問題演習等の練習・解説を通して、理工系大学進学に対応した力を養成する。 自選 物理基礎 文理系・文系 1 単位 4年次に学習した『物理基礎』の学習内容を補填、センター試験『物理基礎』に対応した演習を行う。 </td> <td style="width:25%; vertical-align: top;"> 自選 生物 理系・文理系 2 単位 5年次の学習内容に引き続き、「生態と環境」「生物の進化と系統」の分野の項目についての復習と、大学入学共通テスト、国公立二次試験、私大入試に対応し、副教材などを活用した問題演習を行う。 自選 生物基礎 文系・文理系 1 単位 大学入学共通テストに対応し、副教材などを活用した問題演習を行う。 </td> <td style="width:25%; vertical-align: top;"> 化学 理系・文理系必修 6 単位 1 化学平衡状態の存在および法則性、種々の条件変化によるその移動について理解する。 2 無機物質について周期表を基に、金属・非金属ごとに単体や化合物の性質を広く学ぶ。 3 生体を構成する有機化合物にはどのようなものがあるか、また組成や構造がその性質とどのように関連しているかを理解する。 4 合成高分子化合物について、その組成や構造と性質の関連性を理解し、化学的な理解を深める。 自選 化学基礎 文理系・文系 1 単位 『化学基礎』に対応し、副教材などを活用した問題演習を行う。 </td> <td style="width:25%; vertical-align: top;"> 地学 理系・文理系 必修 6 単位 (1) 地球の形状や内部構造 (2) 地球の活動と歴史 (3) 地球の大気と海洋 (4) 宇宙の構造 自選 地学基礎 文理系・文系 1 単位 5年次の学習で不十分なところを補充するとともに、各単元の重要事項を整理し、文系センター試験をターゲットとした問題演習を行う。 </td> </tr> </table>	必修 物理演習 理系 2 単位 5年次の学習内容に引き続き、物理的な事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、物理学的に探究する能力と態度を育むと共に、基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を身につける。ここでは、電磁気、原子について学ぶ。 自選 物理 理系 2 単位 私大・国公立試験の入試問題演習等の練習・解説を通して、理工系大学進学に対応した力を養成する。 自選 物理基礎 文理系・文系 1 単位 4年次に学習した『物理基礎』の学習内容を補填、センター試験『物理基礎』に対応した演習を行う。	自選 生物 理系・文理系 2 単位 5年次の学習内容に引き続き、「生態と環境」「生物の進化と系統」の分野の項目についての復習と、大学入学共通テスト、国公立二次試験、私大入試に対応し、副教材などを活用した問題演習を行う。 自選 生物基礎 文系・文理系 1 単位 大学入学共通テストに対応し、副教材などを活用した問題演習を行う。	化学 理系・文理系必修 6 単位 1 化学平衡状態の存在および法則性、種々の条件変化によるその移動について理解する。 2 無機物質について周期表を基に、金属・非金属ごとに単体や化合物の性質を広く学ぶ。 3 生体を構成する有機化合物にはどのようなものがあるか、また組成や構造がその性質とどのように関連しているかを理解する。 4 合成高分子化合物について、その組成や構造と性質の関連性を理解し、化学的な理解を深める。 自選 化学基礎 文理系・文系 1 単位 『化学基礎』に対応し、副教材などを活用した問題演習を行う。	地学 理系・文理系 必修 6 単位 (1) 地球の形状や内部構造 (2) 地球の活動と歴史 (3) 地球の大気と海洋 (4) 宇宙の構造 自選 地学基礎 文理系・文系 1 単位 5年次の学習で不十分なところを補充するとともに、各単元の重要事項を整理し、文系センター試験をターゲットとした問題演習を行う。
必修 物理演習 理系 2 単位 5年次の学習内容に引き続き、物理的な事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、物理学的に探究する能力と態度を育むと共に、基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を身につける。ここでは、電磁気、原子について学ぶ。 自選 物理 理系 2 単位 私大・国公立試験の入試問題演習等の練習・解説を通して、理工系大学進学に対応した力を養成する。 自選 物理基礎 文理系・文系 1 単位 4年次に学習した『物理基礎』の学習内容を補填、センター試験『物理基礎』に対応した演習を行う。	自選 生物 理系・文理系 2 単位 5年次の学習内容に引き続き、「生態と環境」「生物の進化と系統」の分野の項目についての復習と、大学入学共通テスト、国公立二次試験、私大入試に対応し、副教材などを活用した問題演習を行う。 自選 生物基礎 文系・文理系 1 単位 大学入学共通テストに対応し、副教材などを活用した問題演習を行う。	化学 理系・文理系必修 6 単位 1 化学平衡状態の存在および法則性、種々の条件変化によるその移動について理解する。 2 無機物質について周期表を基に、金属・非金属ごとに単体や化合物の性質を広く学ぶ。 3 生体を構成する有機化合物にはどのようなものがあるか、また組成や構造がその性質とどのように関連しているかを理解する。 4 合成高分子化合物について、その組成や構造と性質の関連性を理解し、化学的な理解を深める。 自選 化学基礎 文理系・文系 1 単位 『化学基礎』に対応し、副教材などを活用した問題演習を行う。	地学 理系・文理系 必修 6 単位 (1) 地球の形状や内部構造 (2) 地球の活動と歴史 (3) 地球の大気と海洋 (4) 宇宙の構造 自選 地学基礎 文理系・文系 1 単位 5年次の学習で不十分なところを補充するとともに、各単元の重要事項を整理し、文系センター試験をターゲットとした問題演習を行う。		

※ 6年生の自由選択科目は受講希望者数によって変更があり得ます。

教科名 理科

科目名 物理

対象 1学年全員

I 学習到達目標

- 1 中高一貫校の特性を生かし、中学校理科と高等学校物理の学習内容が重複している部分を精選することによって、科目に関する高度な知識を、講義、演習、実験を通して習得させる。
- 2 身の回りにおける物理について調べる活動を行うことで、物理に進んでかかわる意欲的な態度を育てる。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 年間総授業時数35時間（理科140時間中）。
- 2 クラス全体への一斉授業を基本としつつ、実験や演習を行う。

III 教科書・補助教材

教科書 「新しい科学1」東京書籍
 補助教材 「系統的に学ぶ中学物理」文理
 「最新 理科便覧 東京都版」浜島書店
 「中学の物理」教育開発出版

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容		授業時数	備考	
		考 査	「教科書」の学習内容			副教材・その他の学習内容
一 学 期	4	1学期 中 間 考 査	導入 身のまわりには、どのようなしくみがかく されているのだろうか 1章 光の世界 1 物の見え方	初回授業において授業の進め方について説明 実験・授業プリント 理科便覧、系統的、問題集の「光の性質」の学習内容に対応した部分	1～2 3～4	5
	5					
	5 6 7	1学期 期 末 考 査	2 光の反射 鏡で反射する光の実験 3 光の屈折 直方体のガラスを通り抜ける光の実験	実験・授業プリント 理科便覧、系統的、問題集の「光の性質」の学習内容に対応した部分	7～9	8
	夏休み 宿 題		自由研究レポート作成			7
二 学 期	9 10	2学期 中 間 考 査	4 レンズのはたらき 凸レンズによる像のでき方の実験 2章 音の世界 1 音の伝わり方	実験・授業プリント 理科便覧、系統的、問題集の「凸レンズの働き」、「音の性質」の学習内容に対応した部分	6～7	7
	10 11 12	2学期 期 末 考 査	2 音の性質 弦の振動による音の大きさと高さの実験 3章 力の世界 1 日常生活のなかの力 2 力のはかり方 力の大きさとばねののびの関係の実験	実験・授業プリント 理科便覧、系統的、問題集の「音の性質」、「力のはたらき」の学習内容に対応した部分	7～8	8
三 学 期	1 2 3	3学期 学 年 末 考 査	3 力の表し方 4 力のつりあい つりあう2力の実験	実験・授業プリント 理科便覧、系統的、問題集の「力のはたらき」の学習内容に対応した部分	6～7	7
					35	
評 価			学期毎の評価、学年末の評定については、以下の資料を用いて、 「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点から総合的に評価を行う。 ①定期考査：各学期、年間5回 ②提出物：考査ごとの授業および問題集ノート、夏休みレポートなど ③学習の様子：授業（特に実験実施時）への取り組み状況など			

教科名 理科
 科目名 化学
 対象 1 学年全員

I 学習到達目標

- 1 中高一貫校の特性を生かし、高校で学ぶ学習内容を見通し、化学に関する本質的な知識や技能、科学的に探究するための力を講義、演習、実験を通して習得させる。
- 2 化学が「物質」を扱う学問であることから、中等教育、高等教育の内容を見通し、「物質」をどのように扱うべきかの本質的な視点を習得させる。
- 3 化学の授業全体を通じて、科学的に探究する態度を育む。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 年間総授業時数 35 時間（理科 140 時間中）。
- 2 クラス全体への一斉授業を基本としつつ、実験行いながら探究的に授業を進める。

III 教科書・補助教材

教科書 「探究する新しい科学1」 東京書籍
 補助教材 「最新 理科便覧 東京都版」 浜島書店
 「中学の化学」 教育開発出版

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容		授 業 時 数	備 考	
		考 査	「教科書」の学習内容			副教材・その他の学習内容
一 学 期	4	1 学期 中 間 考 査	化学の学習について	初回授業において授業の進め方について説明	1～2	5
	5		化学の実験について 第1章 いろいろな物質とその性質 1 物質の調べ方 2 金属と非金属	理科便覧 実験・授業プリント 問題集「実験の基本操作」、「物質の性質」の学習内容に対応した部分	3～4	
	5 6 7	1 学期 期 末 考 査	3 さまざまな金属の見分け方 4 白い粉末の見分け方	理科便覧 実験・授業プリント 問題集「実験の基本操作」、「物質の性質」の学習内容に対応した部分	7～9	8
二 学 期	9 10	2 学期 中 間 考 査	第2章 気体の性質 1 身のまわりの気体の性質 2 気体の性質と集め方	理科便覧 実験・授業プリント 問題集「実験の基本操作」、「気体の性質」の学習内容に対応した部分	6～7	7
	10 11 12	2 学期 期 末 考 査	第3章 水溶液の性質 1 物質が水にとけるようす 2 溶解度と再結晶 第4章 物質の姿と状態変化 1 物質の状態変化	理科便覧 実験・授業プリント 問題集「実験の基本操作」、「水溶液」、「物質の状態変化」の学習内容に対応した部分	7～8	8
三 学 期	1 2 3	3 学期 学 年 末 考 査	2 物質の状態変化と体積・質量の変化 3 状態変化が起こるときの温度と蒸留 1年間のまとめ	理科便覧 実験・授業プリント 問題集「物質の状態変化」の学習内容に対応した部分	6～7	7
					35	
評 価	学期毎の評価、学年末の評定については、以下の資料を用いて、「知識・技術」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点から総合的に評価を行う。 ①定期考査：各学期、年間5回 ②提出物：考査ごとの授業ノートおよび問題集ノートなど ③学習の様子：授業プリント、実験ワークシート、レポートなど					

教科名 理科
 科目名 生物
 対象 1 学年全員

I 学習到達目標

- 1 中高一貫校の特性を生かし、中学校理科と高等学校生物の学習内容が重複している部分を精選することによって、科目に関する高度な知識を、講義、演習、観察を通して習得させる。
- 2 身の回りにある生物について調べる活動を行うことで、生物に進んでかかわる意欲的な態度を育てる。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 年間総授業時数 35 時間（理科 140 時間中）。
- 2 クラス全体への一斉授業を基本としつつ、観察や演習を行う。

III 教科書・補助教材

教科書 「新しい科学1」東京書籍
 補助教材 「最新 理科便覧 東京都版」浜島書店
 「中学の生物」教育開発出版
 「生物図録 フォトサイエンス」数研出版

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容		授業時数	備考	
		考 査	「教科書」の学習内容 副教材・その他の学習内容			
一 学 期	4	1 学期 中 間 考 査	導入「探求の仕方」「理科室の決まり」 1 章「生物の観察と分類の仕方」 ルーペ、顕微鏡の使い方について学ぶ 顕微鏡を用いた生物の観察 身近な生物の観察 植物の観察	初回授業において授業の進め方について説明 理科便覧 問題集「身近な生物の観察」、の 学習内容に対応した部分	1～2	5
	5		2 章「植物の分類」 ・分類するときの共通点		3～4	
	5 6 7	1 学期 期 末 考 査	・花のつくり 花のつくりの観察 ・裸子植物と被子植物 根・茎・葉脈の種類 食用になっている部分の確認	理科便覧・生物図録 問題集「裸子植物と被子植物」、 「花のつくりとはたらき」の学習 内容に対応した部分 合弁花・離弁花・受粉・受精につ いても学習する	7～9	8
	夏休み 宿 題		レポート作成			
二 学 期	9 10	2 学期 中 間 考 査	・花をさかせず種子をつくらぬ植物 シダ植物・コケ植物のつくりについて 胞子のう・胞子の観察 ・様々な植物の分類 植物全体の仲間分け	理科便覧・生物図録 問題集「植物の仲間」の学習内容 に対応した部分 シダの生活環・藻類・について も学習する。	6～7	7
	10 11 12	2 学期 期 末 考 査	3 章「動物の分類」 ・身近な動物の分類 ・セキツイ動物 ・ムセキツイ動物 ムセキツイ動物の観察	理科便覧・生物図録 問題集「動物の分類」の学習内容 に対応した部分 クモ類・多足類・甲殻類につ いても学習する。学術的な分類方法 についても学習する	7～8	8
三 学 期	1 2 3	3 学期 学 年 末 考 査	・動物の分類表の作成 復習と応用	理科便覧・生物図録 植物・動物の体のつくりにつ いて、今後の学習と関連した内容も 学習する。	6～7	7
					35	
評 価	学期毎の評価、学年末の評定については、以下の資料を用いて、「知識・技術」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点から総合的に評価を行う。 ①定期考査：各学期、年間5回 ②提出物：考査ごとの授業および問題集ノート、実験レポート、夏休み中のレポートなど ③学習の様子：授業（実習）への取り組み状況など					

教科名 理科
 科目名 地学
 対象 1学年全員

I 学習到達目標

- 1 中高一貫校の特性を生かし、中学校理科と高等学校地学の学習内容が重複している部分を精選することによって、科目に関する高度な知識を、講義、演習、観察を通して習得させる。
- 2 身の回りにある地学について調べる活動を行うことで、地学に進んでかかわる意欲的な態度を育てる。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 年間総授業時数35時間（理科140時間中）。
- 2 クラス全体への一斉授業を基本としつつ、理科室において観察や実習を行う。

III 教科書・補助教材

教科書 「新しい科学1」東京書籍
 補助教材 「最新 理科便覧 東京都版」浜島書店
 「中学の地学」教育開発出版
 「系統的に学ぶ 中学 地学」文理

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容		授業時数	備考		
		考 査	「教科書」の学習内容			副教材・その他の学習内容	
一 学 期	4	1学期 中 間 考 査	導入「地球内部の謎にせまる」 1章「火をふく大地」 1 火山の形からわかること 火山地形のモデル実験 2 火山がうみ出す物 火山灰に含まれる鉱物の観察	初回に授業の進め方を説明 理科便覧、系統的、問題集の「火 山」の学習内容に対応した部分	1～2 3～4	5	
	5						
	5 6 7	1学期 期 末 考 査	3 火山の活動と火成岩 火山岩と深成岩の観察 4 火山とともにくらす 2章「動き続ける大地」 1 地震のゆれの伝わり方 地震波の伝わり方の実習	理科便覧、系統的、問題集の「火 山」「地震」の学習内容に対応し た部分	7～9	8	
	夏休み 宿 題		レポート作成				
二 学 期	9 10	2学期 中 間 考 査	2 地震が起こるところ プレート、断層地震のモデル実験 3 地震に備えるために 3章「地層から読み取る大地の変化」 1 地層のつくりとはたらき 地層のでき方の実験	理科便覧、系統的、問題集の「地 震」「地層」の学習内容に対応し た部分	6～7	7	
	10 11 12	2学期 期 末 考 査	2 堆積岩 堆積岩の観察 3 地層や化石からわかること 化石の観察 地質年代の区分と生物の移り変わり	理科便覧、系統的、問題集の「堆 積岩」「化石」の学習内容に対応 した部分	7～8	8	
三 学 期	1 2 3	3学期 学 年 末 考 査	4 大地の変動 5 身近な大地の歴史 身近な地層で調べる大地の歴史	理科便覧、系統的、問題集の「大 地の変動」の学習内容に対応した 部分	6～7	7	
					35		
評 価			学期毎の評価、学年末の評定については、以下の資料を用いて、「知識・技術」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点から総合的に評価を行う。 ①定期考査：各学期、年間5回 ②提出物：考査ごとの授業および問題集ノート、夏休みレポートなど ③学習の様子：授業（特に観察実施時）への取り組み状況など				

音楽科

I 音楽科の学習目標

- (1) 中学段階では、音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質能力を高める。
- (2) 高校段階では、音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質能力を高める。
- (3) 6年間を通して、音楽に対する感性を豊かにするとともに、芸術の諸能力を伸ばし、豊かな情操を養う。

II 音楽科の6年間の科目構成と学習内容

		「科目」と学習内容	発展的な内容、特色ある活動、関連する行事等
中学段階	1年	A表現 (1) 歌唱：斉唱、混声三部合唱 (2) 器楽・創作： アルトリコーダー・三味線 B鑑賞 (1) 芸術歌曲 (2) 管弦楽曲	合唱コンクールクラス曲の練習および発表 三味線実技の練習および発表
	2年	A表現 (1) 歌唱：独唱、混声三部合唱 (2) 器楽・創作：アルトリコーダー・三味線 B鑑賞 (1) 管弦楽曲 (2) オペラ、日本の伝統芸能	合唱コンクールクラス曲の練習および発表 三味線実技の練習および発表
	3年	A表現 (1) 歌唱：独唱、混声三部合唱、混声四部合唱 (2) 器楽：三味線 B鑑賞 (1) 管弦楽曲 (2) 日本の伝統芸能	合唱コンクールクラス曲の練習および発表 三味線実技の練習および発表 芸術鑑賞教室
高校段階	4年	音楽Ⅰ（必修選択） 歌唱 独唱・混声四部合唱・アカペラ 器楽 三味線実技、鍵盤楽器 鑑賞、創作、理論	芸術鑑賞教室 合唱コンクールクラス曲の練習および発表 混声四部合唱曲の練習および発表
	5年		合唱コンクールクラス曲の練習および発表
	6年	音楽Ⅰ・Ⅱ（自由選択／2単位） (1) 実技演習 (2) 鑑賞 (3) 楽典	入試過去問題演習 個人レッスン

* 6年生の自由選択科目は受講希望者数によって変更があり得ます。

教科名 音楽科
 科目名 音楽
 対象 1学年全員

I 学習到達目標

(1) 曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付ける。(2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができる。(3) 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむ。

II 授業の進め方(授業形態等)

歌唱 独唱・混声三部合唱
 器楽 三味線実技、アルトリコーダー
 鑑賞、創作、理論 講義形式またはグループワーク

III 教科書・補助教材

教科書 「中学生の音楽1」「中学生の器楽」教育芸術社
 補助教材 「やさしく学べる三味線入門」全音楽譜出版社「コーラスフェスティバル」正進社「ミュージックノート」教育出版
 三味線道具、アルトリコーダー

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容		授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容		
一 学 期	4		読譜、呼吸法、発声法 校歌	1 1	
	5		アルトリコーダー 器楽P. 16～25	4	ミュージックノート
	6	1学期 期 末 考 査	鑑賞「四季より春」P. 44～47 アルトリコーダー 器楽 P. 16～25	4 4. 5	ミュージックノート
	7		歌唱 楽典・リズムドリル アルトリコーダー実技テスト 1学期期末考査	2 2 1	
	夏休み 宿 題		盆踊りレポート		
二 学 期	9		器楽 三味線の扱い方・基本的奏法など 三味線実技(「さくらさくら」)	6	三味線入門
	10		鑑賞「魔王」P. 48～51 楽典(音名等)	4 2	
	10	2学期 期 末 考 査	器楽 三味線実技(「さくらさくら」)	6	三味線入門
	11		三味線実技試験 2学期期末考査	1	
	12		ハワイアンミュージック	2	
三 学 期	1	3学期 学 年 末 考 査	合唱コンクールに向けて混声合唱 鑑賞「日本の民謡」P. 58～63	4 6	合唱曲(コーラスフェスティバル) ミュージックノート
	2		合唱コンクール	2	
	3		混声三部合唱実技試験 学年末考査		
				52. 5	
評 価			各学期実技テストや定期考査等のテストに平常点(宿題やワークシートの提出・授業中の取り組み)を加味したものを評価の対象とし、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の観点別で評価する。各学期5段階評価。		

美術科

I 美術科の学習目標

- (1) 中学段階においては、美術を愛好する心情を育てるとともに、美術の基礎的な能力を伸ばす。
- (2) 高校段階においては、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、個性豊かな表現の能力を伸ばす。
- (3) 6年間を通して、美術に対する感性を豊かにするとともに、芸術の諸能力を伸ばし、豊かな情操を養う。

II 美術科の6年間の科目構成と学習内容

		「科目」と学習内容	発展的な内容、特色ある活動、関連する行事等
中学段階	1年	A表現 (1) 絵と彫刻など ・自画像 ・模写 (2) デザインと工芸など ・レタリング ・一版多色刷り B鑑賞	体験活動 ・東京国立博物館、東京都美術館 見学 芸術鑑賞教室
	2年	A表現 (1) 絵と彫刻など ・他画像 ・透視図法による絵画 (2) デザインと工芸など ・ハイコントラスト ・石彫（篆刻） B鑑賞	体験活動 ・諸美術館、ギャラリー等の見学
	3年	A表現 (1) 絵と彫刻など ・自画像 ・静物画 (2) デザインと工芸など ・ポスターデザイン ・フォトリアリズム B鑑賞	日本の伝統文化 ・日本の文化遺産、美術作品模写 ・日本の文化遺産、芸術調べ学習 ・鑑賞（校外学習）
高校段階	4年	《美術I》【必修選択】 (1) 絵画・「水彩画」ひとつの色にとらわれることのないように彩色をする。モチーフの持つイメージをとらえ、画面に表現をする。 (2) デザイン・「タイポグラフィ」デザインにより伝えることのできる可能性について学習する。 ・「パッケージデザイン」普段目にする製品のデザインに着目し、そのすべてに意味があることに気づく。 (3) 立体造形・「金工」材料の特性を理解し、制作活動を行う。 芸術鑑賞教室	
	5年		
	6年	《美術I・II》【自由選択】 ○自由制作 ・1年間を通した制作スケジュールを各自で計画する。 ・文化祭に1作品、卒業までに1作品を完成させ、それぞれ発表、展示する。 * 6年生の自由選択科目は受講希望者数によって変更があり得ます。	

* 6年生の自由選択科目は受講希望者数によって変更があり得ます。

教科名 美術科
 科目名 美術
 対象 1 学年全員

I 学習到達目標

- 1 美術への興味・関心を持ち、基礎的な美術表現を身に付ける。
- 2 楽しい美術活動を通して美術を愛好する心情を培う。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 年間総授業時数 52.5 時間
- 2 美術室における制作活動
- 3 鑑賞（美術館等）

III 教科書・補助教材

教科書 光村図書「美術1」
 補助教材 秀学社「レタリング辞典」

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容		授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容		
一 学 期	4		・オリエンテーション	1	
	5		・スケッチ ・レタリング	1 12.5	レタリング辞典 P.1～5
	6		・色彩論	2	
	7	1 学期 期 末 考 査	・1 学期期末テスト ・テスト解説 ・鑑賞	1 1 1	
	夏休み 宿 題		・美術館鑑賞レポート		
二 学 期	9		・一版多色刷り版画	16	
	10		・色彩論 ・版画、浮世絵について	1 1	
	11	2 学期 期 末 考 査	・2 学期期末テスト ・テスト解説 ・鑑賞	1 1 1	
	12				
三 学 期	1		・名画の模写	10	
	2	3 学期 学 年 末	・学年末テスト ・テスト解説、まとめ	1 1	
	3	考 査	・鑑賞		
				計 52.5 時間	
評 価	以下の点を中心に、定期考査・実技・提出物・授業態度等をもとにして評価する。 1 授業に取り組む姿勢・態度 2 美術史、色彩論等の基本理解 3 表現を楽しんだり、工夫したりすることができたか				

保健体育科

I 保健体育科の学習目標

- (1) 各種の運動における合理的な実践を通して体力を養い、心身の調和的発達を図る。
- (2) 公正、協力、責任などの態度を培い、生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育てる。
- (3) 運動や健康について自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに他者に伝える力を養う。
- (4) 個人及び集団生活における健康・安全について理解を深める。
- (5) 個人及び集団生活における心身の健康を保持増進する資質や能力を育てる。

II 保健体育科の6年の科目構成と学習内容

		「科目」と学習内容	発展的な内容、特色ある活動、関連する行事等
中学段階	1年	体育分野 ・体づくり運動（白鷗体操） ・陸上競技、器械運動、水泳、球技、武道、ダンス ・体育理論 保健分野 ・健康な生活と病気の予防 ・心身の発達と心の健康	特色ある活動 ・体育祭 ・スポーツ大会
	2年	体育分野 ・体づくり運動（白鷗体操） ・陸上競技、器械運動、水泳、球技、武道、ダンス ・体育理論 保健分野 ・健康な生活と病気の予防 ・傷害の防止	特色ある活動 ・体育祭 ・スポーツ大会
	3年	体育分野 ・体づくり運動（白鷗体操） ・陸上競技、器械運動、水泳、球技、武道、ダンス ・体育理論 保健分野 ・健康な生活と病気の予防 ・健康と環境	特色ある活動 ・体育祭 ・スポーツ大会
高校段階	4年	体育 ・体づくり運動（白鷗体操） ・球技（種目選択を含む） ・水泳 ・選択種目（球技、武道、ダンス） ・陸上競技 保健 ・現代社会と健康 ・生涯を通じる健康	特色ある活動 ・体育祭 ・スポーツ大会 ・部活動合宿
	5年	体育 ・体づくり運動（白鷗体操） ・球技（種目選択を含む） ・水泳 ・陸上競技 ・体育理論 保健 ・社会生活と健康	特色ある活動 ・体育祭 ・スポーツ大会 ・部活動合宿
	6年	体育 ・体づくり運動（白鷗体操） ・球技（種目選択を含む） ・水泳 ・カドリール	特色ある活動 ・体育祭 ・スポーツ大会

* 6年生の自由選択科目は受講希望者数によって変更があり得ます。

教科名 保健体育科
 科目名 保健体育
 対象 1 学年全員

I 学習到達目標

生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成する。
 1 各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。
 2 運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
 3 生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

II 授業の進め方 (授業形態等)

1 年間授業時数 105 時間

III 教科書・補助教材

教科書 大日本図書「中学校 保健体育」
 副教材 大修館書店「ステップアップ中学体育」

IV 学習計画

学期	月	学 習 内 容				授 業 時 数		備 考	
		考 査	A	B					
一 学 期	4		体づくり運動 集団行動 (白鷗体操、新体力テスト)	体育理論 1. 運動やスポーツの必要性和 楽しさ P4-5 保健 健康な生活と病気の予防	体づくり運動 集団行動 (白鷗体操、新体力テスト)	体育理論 1. 運動やスポーツの必要性和 楽しさ P4-5 保健 健康な生活と病気の予防	8	体育 理論 1	
	5		陸上競技 (短距離・リレー)	1.健康の成り立ち P16-17	陸上競技 (短距離・リレー)	1.健康の成り立ち P16-17	6	保健 4	
	6		球技 (ハンドボール)	2.運動と健康 P18-19	球技 (バレーボール)	2.運動と健康 P18-19	6	保健 4	体育祭
	7	期末考査	陸上競技 (走り幅跳び)	3.食生活と健康 P20-21	器械運動 (マット運動)	3.食生活と健康 P20-21	6		
			水泳	4.休養・睡眠と健康 P22-23	水泳	4.休養・睡眠と健康 P22-23			
	夏休み 宿題		5.調和のとれた生活 P24-25 心身の発達と心の影響		5.調和のとれた生活 P24-25				
			1.体の発育・発達 P30-31						
			2.呼吸器官・循環器官の発 育・発達 P32-33						
二 学 期	9		水泳	2. 運動やスポーツへの多様な 関わり方 P6-7	水泳	2. 運動やスポーツへの多様な 関わり方 P6-7	8	体育 理論 1	
	10		球技 (バレーボール)	保健 3.生命を生み出す体への成熟 P34-37	球技 (ハンドボール)	保健 3.生命を生み出す体への成熟 P34-37	9	保健 4	
	11		器械運動 (マット運動)	4.思春期の心の変化への対応 P38-39	陸上競技 (走り幅跳び)	4.思春期の心の変化への対応P 38-39	9	保健 4	
	12	期末考査	武道 (柔道)	5.考える心・感動する心の 発達 P40-41	ダンス 武道 (柔道)	5.考える心・感動する心の 発達 P40-41	6		
			球技 (卓球)	6.人との関わりと自分らしさ P42-43	球技 (バドミントン)	6.人との関わりと自分らしさ P42-43			
	冬休み 宿題		7.欲求への対処 P44-45		7.欲求への対処 P44-45				
			8.ストレスへの対処 P46-47		8.ストレスへの対処 P46-47				
			9.心と体の関わり P48-49		9.心と体の関わり P48-49				
三 学 期	1		陸上競技 (長距離走)	3. 運動やスポーツへの多様な 楽しみ方学び方 P8-9	球技 (バスケットボール)	3. 運動やスポーツへの多様な 楽しみ方学び方 P8-9	6	体育 理論 1	
	2		球技 (バスケットボール)		陸上競技 (長距離走)		10		
	3	期末考査	球技 (バドミントン)		球技 (卓球)		9		スポーツ 大会
						86	19		
						105			
評 価	<p>評価・評定については以下の3観点をもとに総合的に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識・技能 ・思考・判断・表現 ・主体的に学習に取り組む態度 <p>①定期考査 ②学習カード、ワークシート ③技能テスト、記録 ④観察 (授業参加態度、提出物状況、関心・意欲 課題解決能力、判断能力等)</p>								

技術・家庭科

I 技術・家庭科の学習目標

- (1) 日常の家庭生活に関心を持ち、生活を見直す姿勢を養う。
- (2) 生活課題を解決するために実際の生活の場で実践できる基礎的な知識と技術を身に付けさせる。
- (3) どうすればよいのか判断して意思決定し、よりよい生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。
- (4) 社会の変化に主体的に対応できる人間育成を目指して、生活の自立と生きる力を育む。

II 技術・家庭科の6年間の科目構成と学習内容

		「科目」と学習内容		発展的な内容、特色ある活動、関連する行事等
中学段階	1年	家庭分野【全員必修】 家庭分野ガイダンス A 家族・家庭生活 1 自分の成長と家族・家庭生活 B 衣食住の生活(衣) 1 目的に応じた衣服の選択 2 日常着の手入れと保管 3 生活を豊かにするための製作 4 持続可能な衣生活(住) 1 住まいのはたらきとこちよさ 2 安全な住まいで安心な暮らし 3 持続可能な衣生活	技術分野【全員必修】 技術分野ガイダンス 1編 材料と加工の技術 1章 材料と加工の技術の原理・法則と仕組み 2章 材料と加工の技術による問題解決 3章 社会の発展と材料と加工の技術 2編 生物育成の技術 1章 生物育成の技術の原理・法則と仕組み 4編 情報の技術 1章 情報の技術の原理・法則と仕組み	テーマ学習 ・家庭内での自分の役割 ・日本と世界の伝統的衣装 ・日本の住居、世界の住居 日本の伝統文化 ・地域伝統工芸訪問、講話（江戸指物等） ＊総合学習と内容が重なる場合有り プレゼンテーション能力 ・コンピュータリテラシーと情報モラル ・プレゼンテーションソフトの活用 資格試験 ・P検5級の受験
	2年	家庭分野【全員必修】 B 衣食住の生活(食) 1 食事の役割と食習慣 2 中学生に必要な栄養を満たす食事 3 日常食の調理 4 献立づくり 5 持続可能な食生活	技術分野【全員必修】 3編 エネルギー変換の技術 1章 エネルギー変換の技術の原理・法則と仕組み 2章 エネルギー変換の技術による問題解決 3章 社会の発展とエネルギー変換の技術 2編 生物育成の技術 2章 生物育成の技術による問題解決 3章 社会の発展と生物育成の技術 4編 情報の技術 2章 双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題解決 3章 計測・制御のプログラミングによる問題解決	テーマ学習 ・自身の食事摂取基準（1日当り）と理想の比較検証 ・郷土料理（我が家の味、世界の味）と行事食
	3年	家庭分野【全員必修】 A 家族・家庭生活 1 幼児の生活と家族 2 幼児とのかかわり 3 家庭生活と地域のかかわり C 消費生活・環境 1 家庭生活と消費 2 購入・支払いと生活情報 3 消費者被害と消費者の自立 4 持続可能な社会	技術分野【全員必修】 4編 情報の技術 2章 双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題解決 3章 計測・制御のプログラミングによる問題解決 4章 社会の発展と情報の技術	テーマ学習 ・ゴミの減量化 ・省エネルギー 体験的学習 ・消費者教育講座
高校段階	4年	《家庭基礎》【全員必修】 1 人の一生と家族・家庭及び福祉 ア 青少年の自立と家族・家庭 イ 子どもの発達と保育 ウ 高齢期の生活 エ 共生社会と福祉 2 生活の自立及び消費と環境 ア 食事と健康 イ 被服管理と着装 ウ 住居と住環境 エ 消費生活と生涯を見通した経済の計画 オ ライフスタイルと環境 カ 生涯の生活設計 3 ホームプロジェクトと学校家庭クラブ		学校家庭クラブ活動 ・デイケアセンターとの交流 ・福祉作業所との交流 ・こども園との交流 体験学習 ・車椅子体験 ・シニア疑似体験 ・保育園実習

* 5年・6年は家庭科の設定科目なし

教科名 技術・家庭科
 科目名 技術・家庭
 対象 1 学年全員

I 学習到達目標

- 1 実践的・体験的な学習を通して、生活の自立に必要な衣生活や住生活、ものづくりに関する知識と技術を習得する。
- 2 情報通信について学び、情報に関するモラルや情報の基礎を身に付ける。
- 3 課題を持って生活をよりよくしようとする能力と態度が育つ。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 年間授業時数70時間 2 1 クラス2 展開 20人授業
- 技術を学ぶ生徒と家庭科を学ぶ生徒を、1 学期と2 学期で入れ替える。3 学期は1 時間ずつ技術と家庭科を学習する。

III 教科書・補助教材

教科書 「新しい技術・家庭（技術分野）」東京書籍 「技術・家庭（家庭分野）」開隆堂
 補助教材「技術・家庭ノート（家庭分野）」正進社 木材加工キット・情報テキスト（技術分野） 被服作品キット（家庭分野）

IV 学習計画

学期	月	学 習 内 容				授業時数	備考	
		考 査	「教科書」の学習内容		副教材・その他の学習内容			
一 学 期	春休み宿題							
	4		<技術分野>：α 班 技術分野のガイダンス P6～17 1編 材料と加工の技術 1章 材料と加工の技術の原理・法則と仕組みp22～77 1 身の回りの材料と加工の技術 2 木材・金属・プラスチックの特性 3 材料に適した加工方法 4 丈夫な製品を作るために 5 材料と加工の技術の工夫 2章 材料と加工の技術による問題解決 ・木工製品の設計・製作	<家庭分野>：β 班 家庭分野の学習を始めよう A 家族・家庭生活 B 衣食住の生活 衣) p162～204 1 目的に応じた衣服の選択 2 日常着の手入れと保管 3 生活を豊かにするものの製作 4 持続可能な衣生活	<技術分野> 木材加工キット製作 実験・実習 課題プリント	<家庭分野> ノート P4～8 ノート P66～69 P71～74 P78 P82～83 被服実習 課題プリント 調べ学習	6～8 6～8	
	6 7	1 学期 期 末 考 査	3章 社会の発展と材料の加工の技術 材料と加工の技術の最適化・これからの技術P78～83	3 布を用いた物の製作 P168～175	木材加工キット製作 実験・実習 課題プリント	ノートP88～90, 93 被服実習 課題プリント	8 4	
夏休み宿題								
二 学 期	9 10		<家庭分野>：α 班 家庭分野の学習を始めよう A 家族・家庭生活 B 衣食住の生活 衣) p162～204 1 目的に応じた衣服の選択 2 日常着の手入れと保管 3 生活を豊かにするものの製作 4 持続可能な衣生活	技術分野のガイダンス P6～17 1編 材料と加工の技術 1章 材料と加工の技術の原理・法則と仕組みp22～77 1 身の回りの材料と加工の技術 2 木材・金属・プラスチックの特性 3 材料に適した加工方法 4 丈夫な製品を作るために 5 材料と加工の技術の工夫 2章 材料と加工の技術による問題解決 ・木工製品の設計・製作	<家庭分野> ノート P4～8 ノート P66～69 P71～74 P78 P82～83 被服実習 課題プリント 調べ学習	<技術分野> 木材加工キット製作 実験・実習 課題プリント	6～8 6～8	
	11 12	2 学期 期 末 考 査	3 布を用いた物の製作 P168～175	3章 社会の発展と材料の加工の技術 材料と加工の技術の最適化・これからの技術P78～83	ノートP88～90, 93 被服実習 課題プリント	木材加工キット製作 実験・実習 課題プリント	8 4	
	冬休み宿題							
三 学 期	1 2 3	3 学期 学 年 末 考 査	<技術分野> 4編 情報の技術 1章 情報の技術の原理・法則と仕組み P198～217 2編 生物育成の技術 1章 生物育成の技術の原理・法則と仕組み P90～101	<家庭分野> B 衣食住の生活 住) p208～225 1 住まいのはたらきとこころよさ 2 安全な住まいで安心な暮らし 3 持続可能な住生活	<技術分野> コンピュータ実習 学習ノート P2～13、16～24	<家庭分野> ノート P86～87 P88～90 P92～93 調査 レポート	2～4 10 4	
							計70 (2単位)	
	評 価	学期毎の評価、学年末の評定については、以下の資料を用いて、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点から総合的に評価を行う。①定期考査（各学期1回、年間3回）、②提出物（宿題ノート、課題プリント）、③学習の様子（授業参加態度、提出物状況、関心・意欲等）						

英語科

I 英語科の学習目標

- (1) 外国語の学習を通じて、外国語とその外国語が使われている文化背景について学ぶ。
- (2) 外国語の学習を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢を育てる。
- (3) 外国語の学習を通じて、情報や意向を理解し、自己表現する実践的なコミュニケーション能力を身につける。

II 英語科の6年間の科目構成と学習内容

		「科目」と学習内容	発展的な内容、特色ある活動、関連する行事等
中学段階	1年	小学校の学習内容を体系的な知識・技能に移行する。 【言語運用スキル】アルファベットの書き方、辞書の使い方、音声と文字のつながり、日常的なあいさつ、シンプルな会話・スピーチの聞き取り、簡単な自己表現、簡単な道案内 【言語材料】be動詞・一般動詞の肯定文/否定文/疑問文、疑問詞を用いた疑問文、命令文、場所を表す前置詞、基本的な動名詞・過去時制(be動詞/一般動詞)、代名詞、三人称単数現在の表現・助動詞(can/need to)、現在進行形、感嘆文、不定詞(want to)、SVC(look)	<ul style="list-style-type: none"> ・CD教材などで聞き取り練習 ・スキットの作成、発表 ・文法・語法の演習および先行的学習 ・日記文やエッセイ文の基本練習 ・Show & Tellなどによる口頭発表活動 ・英検全員受検【4級の取得を目指す】 ・GTEC受験
	2年	基本的な英語運用能力を伸ばす 【言語運用スキル】学習を深める辞書の使い方、英語の文構造、品詞、即興の会話の継続、聞き手を意識したスピーチ・会話、道案内、場面に応じた依頼、電話でのやり取り、手紙の書き方 【言語材料】未来の表現、五文型、接続詞(because/if/when/that)、助動詞(may/will/must/shall/have to/過去)、不定詞、動名詞、疑問詞+to、比較表現、受け身	<ul style="list-style-type: none"> ・CD教材などで聞き取り練習 ・文法・語法の演習および先行的学習 ・日記文やエッセイ文の基本練習 ・副読本を読む ・英文の暗唱などの口頭発表活動 ・英検全員受検【準2級以上の取得を目指す】 ・GTEC受験
	3年	基本的な英語運用能力を完成し、高校への準備に入る 【言語運用スキル】聞き手を意識した社会的な話題への論理的な意見構築、相手の意見を受けての自己主張、シンプルなディベート、シンプルな要約 【言語材料】現在完了/完了進行形、SVOC、It for to、原形不定詞、間接疑問文、後置修飾、現在/過去分詞、接触節、関係代名詞、仮定法	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションを中心とした発展的活動 ・副読本を読む ・文法・語彙(ごい)・表現力強化、聞き取り練習 ・高校英語への準備 ・英検受検【2級以上の取得を目指す】 ・GTEC受験 ・英文エッセイを完成
高校段階	4年	《コミュニケーション英語Ⅰ》《英語表現Ⅰ》 中学時代に学習した英語能力をさらに高める 【英語で聞いたことを素早く処理する】 【様々なジャンルの英語を正確に読みとる】 【言いたいことが言えるようにする】 【自分の意見を持って書く表現力をつける】	<ul style="list-style-type: none"> ・副読本を読む ・文法の演習・まとめ ・スピーチ・ダイアログを行う ・語彙(ごい)・表現力強化 ・やさしいニュースを聞く ・GTEC受験
	5年	《コミュニケーション英語Ⅱ》《英語表現Ⅱ》 《白鷗プレゼンテーション・イン・イングリッシュ》 5年終了時まで共通テストで7割の得点が取れるようにする 【英語コミュニケーション能力をさらに伸ばす】 【論理展開などに注意して文章を理解する】 【習った語法を使い、言いたいことが書ける】 【テーマを決め論理的な説得力のある文を書く】 【発表の仕方を学び、自分の意見を発表する】	<ul style="list-style-type: none"> ・副読本を読む ・文法・語法の演習 ・構文の定着 語彙(ごい) 増強 ・速読できる力をつける ・いろいろな英語を聞く ・プレゼンテーションを行う ・GTEC受験
	6年	《コミュニケーション英語Ⅲ》《英語表現Ⅱ》 《白鷗プレゼンテーション・イン・イングリッシュ》 大学入試問題(国公立2次・私大)の演習を行う 【長文理解に加えて、背景を学ぶ】 【いろいろなテーマについて内容豊かに書く】 【かなりの分量を速く読む技術を習得する】 【話し合ったり、討論したりする】	<ul style="list-style-type: none"> ・文法・語法・構文の演習 ・語彙増強 ・読解力の向上 ・リスニングテストで聞き取り練習 ・各自の必要に応じた力の伸長 ・プレゼンテーションを行う ・英語論文の完成

* 6年生の自由選択科目は受講希望者数によって変更があり得ます。

教科名 英語科
 科目名 英語
 対象 1 学年全員

I 学習到達目標

- 1 初歩的な英語を読んで書き手の意向などを理解できるようにする。
- 2 英語の基本的な表現を学習し、それを使って言いたいことを相手に伝えたり、相手の意見を聞いたりする能力を身に付ける。
- 3 英語が使われている国の人々や生活について学習し、日本との違いや共通点を理解する。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 2クラスを4展開して習熟度クラス編成による授業を行う。
- 2 副教材を活用し、基礎を固めると共に、発展的な学習を行う。
- 3 定期的に単語テストや小テスト（単元テスト/Dictationテストなど）を行う。

III 教科書・補助教材

教科書 「New Horizon 1 English Course」東京書籍
 補助教材 「EIGO NO PARTNER」正進社、「5 stage 英文法完成 book 1」数研出版、「新 ユメタン0」アルク、

IV 学習計画

学期	月	学習内容		授業時数	備考	
		考査	「教科書」の学習内容			副教材・その他の学習内容
1学期	4	1学期 中間 考査	Unit 0, 1, 2 ・小学校で習った表現を使って、やりとりをしたり、単語を読んだり書き写したりする。 ・be動詞・一般動詞を使って、自分が普段よくすることや、できることを伝えることができる。 ・疑問詞を使って、身近な人やものについて紹介したり、たずねたりすることができる。 ・助動詞canを使って自分ができていることを表現し、また相手に許可を求める表現can Iなどを使って会話する。 Classroom English / Self Introduction 【英会話】 ・授業内で使われる英語に慣れる。簡単な自己紹介を行う ・Phonics/ 基本単語 / 名詞の単復（演習）【英文法】	Dictation ・教科書本文の学習後Dictationテストを行う。 単元テスト 教科書単元終了後に、教科書の表現・文法を確認。	21	
	5				24	
	6				1学期 期末 考査	Unit 3・4・5, ・疑問詞や命令文を使って、相手に指示したり、時刻や好きなものの、数などをたずねたりすることができる。 ・前置詞や現在進行形を使って、行った場所や、そこで楽しんだことなどについて話すことができる。 What animal am I? / My summer plan 【英会話】 ・平易な表現を用いて考えを伝える。 ・Phonics / 基本単語 / 代名詞（演習）【英文法】
7	10					
	夏休み 宿題	宿題 テスト	1学期の復習 特に『be動詞・一般動詞、疑問詞を使った疑問文を重点的に』		1	
2学期	9	2学期 中間 考査	Unit 6、Let's Talk 1. ・三人称単数現在形の『S』を理解し、使う。 Summer Memories / My favorite person 【英会話】 ・平易な表現で過去の出来事、第三者について述べる ・単語 / can, 現在進行形（演習）【英文法】	Dictation/単元テスト/単語帳	20	
	10				20	
	10	2学期 期末 考査	Unit 7, 8, 9、Let's Listen 1、Let's Talk 2、Let's write 1 ・代名詞を使って自分と相手以外の人について話したり、だれのものかをたずねたりすることができる。 ・現在進行形を使って今自分がしていることを表現できる。 ・want toを使い、自分がしたいことや、する必要のあることについて説明したり、たずねたりすることができる。 スキット/文化学習 【英会話】 ・グループでの生徒同士で英語圏の季節行事を学ぶ 単語 / 冠詞, 前置詞（演習）【英文法】	一般動詞過去形プリント ・中学で覚えておくべき動詞の過去形を厳選して選び、小テストで定着を図る。 単語帳/Dictation/単元テスト	25	世界の言語の特徴(第2外国語選択に向けて)
	11				17	
12	18					
	冬休み 宿題	宿題 テスト	1～2学期の総復習【動詞（三単現のS、過去形、現在進行形、前置詞、副詞中心）】	文法テキスト	1	
3学期	1	3学期 学年末 考査	Unit 10, 11、Let's Listen 2, 3、Let's Read 1,2、Let's Talk 3,4、Let's Write 2 ・様々な一般動詞の過去形をマスターし、自分の夏休みに行った事を英語で書き、発表する。 ・長い文章に触れ、その内容について理解する。 ・単語 / 英語の語順、一般動詞の過去形【英文法】	文法テキスト ・文法テキストを用いて、1年の復習を行う。 単語帳/Dictation/単元テスト	14	
	2				10	
	3				7	
					210	
評価	学期ごとの評価、学年末の評定については、以下の資料を用いて、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点から総合的に評価を行う。 ①定期考査（各学期：年間5回）、②宿題テスト（夏休み、冬休み、年間2回）、③単元テスト、Dictationテスト ④小テスト（単語・フレーズ） ⑤提出物（宿題ノート、課題プリント）、 ⑥学習の様子（授業参加態度、提出物状況、関心・意欲等）					

総合的な学習の時間

I 総合的な学習の時間の学習目標

- (1) 主体的に課題を発見し、解決することができる力を身につける
- (2) 事象を様々な角度からとらえ分析できる力を身につける
- (3) 多様な価値観を尊重して協働できる力を身につける
- (4) 斬新かつ柔軟な発想力を身につける

II 総合的な学習の時間の6年間の科目構成と学習内容

		「科目」と学習内容	発展的な内容、特色ある活動、関連する行事等
中学段階	1年	「総合的な学習の時間」 ・浅草上野調べ学習 ・浅草上野のリーフレット制作 ・プレゼンテーション学習 ・ポスターセッション ・職業講話	・浅草上野のフィールドワーク ・白鷗祭での調べ学習の発表 ・高大連携授業 ・わかりやすい探究ポスター制作に必要な知識を学ぶ ・外部人材による講演会
	2年	「総合的な学習の時間」 ・探究活動の手法 ・浅草伝統文化体験 ・リサーチクエストと仮説 ・職場体験 ・ポスターセッション	・補助教材を用いて、探究活動に必要なスキルを学ぶ ・浅草地域の伝統工芸制作を体験する ・白鷗祭での調べ学習の発表 ・職場体験 ・1年間の探究活動の成果を発表するポスターセッションを行う
	3年	「総合的な学習の時間」 ・5年次海外修学旅行の企画立案 ・3年探究活動のリサーチクエストと仮説 ・世界の諸課題について ・ミニ探究論文の執筆	・5年次探究論文のテーマと関連づけて旅行先を考える ・企画旅行に必要なことを旅行会社から学ぶ ・5年次海外修学旅行の企画をする ・他教科と連携して、世界の諸課題について知識を深める ・1年間の探究活動の成果を発表するポスターセッションを行う
高校段階	4年	「総合的な探究の時間（人間と社会）」 ・5年次海外修学旅行コンペティション ・5年次探究論文テーマ決め ・探究論文研究計画書作成	・旅行会社の協力のもと、生徒の考えた海外修学旅行案の中から、実際に挙げるものを選出する ・5年次海外修学旅行先をふまえて、5年次探究論文のテーマについて理解を深め、リサーチクエストと立てる ・年度末に探究論文の研究計画発表会を行う
	5年	「総合的な探究の時間」 ・探究論文執筆 ・海外修学旅行 ・探究論文発表	・本校教員をアドバイザーとして探究論文を執筆する ・海外修学旅行で探究論文のための調査等を行う ・論文完成後、発表会を行う
	6年		

* 6年生の自由選択科目は受講希望者数によって変更があり得ます。

教科名 総合的な学習の時間
 科目名 **総合的な学習の時間**
 対象 1 学年全員

I 学習到達目標

- 1 活動に主体的に取り組み、課題を発見し探究していこうという姿勢を身につける
- 2 協働して物事に取り組む態度の素地を身につける
- 3 自分の意見を聞き手にわかりやすく伝えることができる

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 学校がある浅草地域をテーマに探究活動を展開する
- 2 ボランティアとのフィールドワークや高大連携授業など、校外の人材と協働して活動する時間を多く確保する
- 3 自分の考えを聞き手にわかりやすく伝えるために必要なことを学ぶ時間を設ける

III 教科書・補助教材

教科書 なし
 補助教材 岡本尚也「課題探究メソッドStart Book」啓林館、2019年

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容		授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容		
一 学 期	春休み 宿 題	なし		0	
	4	なし	オリエンテーション	2	
	5		探究活動のフレーム学習 浅草上野調べ学習	3	
	6	なし	浅草上野探索 浅草上野リーフレット制作導入	2 3	
二 学 期	夏休み 宿 題	なし	江戸東京博物館自主学习 台東区子供歴史文化検定の学習	0	
	9	なし	台東区子供歴史文化検定	3	
	10		浅草上野リーフレット制作	1	
	11	なし	浅草上野リーフレット制作	3	() はまとも 取りの時 数を含む
12		プレゼンテーション集中学習 ポスター発表 優秀チーム発表	(10)		
	冬休み 宿 題	なし	身近な大人の職業インタビュー	0	
三 学 期	1	なし	職業インタビューの共有	2	
	2		職業講話事前学習	2	
	3		職業講話 2年生ポスター発表見学	4	
				計 35 (1 単位)	
評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・活動に主体的に取り組み、課題を発見し探究していこうという姿勢が見られるか ・グループ活動等で、他者の長所を活かして協働して物事に取り組もうとしているか ・浅草上野地域や神田外語大学の方々と関わる機会を、自らの学びに活かそうとしているか ・自分の意見を聞き手にわかりやすく伝えるために必要なことを理解しているか 				

道徳

I 道徳の時間の学習目標

生命の尊さを理解し、自他を尊重する豊かな心と、正しく判断し自分の行動に責任をもつ態度を育成するとともに、集団の一員としての自覚と規範意識を高める。

II 道徳の時間の3年の科目構成と学習内容

	「科目」と学習内容・配慮すべき事項	特色ある活動（指導の観点）、関連する行事等
1年	<p>[1学年の重点内容項目]</p> <p>(1) 日常生活から様々な機会を捕らえて、人を思いやる心を育てる</p> <p>(2) 公衆道徳を身に付ける</p> <p>[1学年段階で配慮すべき事項]</p> <p>(1) 心身の健康に心がけ、節度のある生活態度を育てる</p> <p>(2) 他者の立場を理解し、思いやる心を育てる</p>	<p>・道徳授業地区公開講座</p> <p>・体育祭 (自主・自立、向上心、友情・信頼)</p> <p>・白鷗祭 (思いやり、相互理解・寛容、集団生活の充実)</p> <p>・伝統文化体験 (礼儀、我が国の伝統と文化の尊重、国際理解)</p> <p>・上野・浅草探究活動 (礼儀、郷土の伝統と文化の尊重、国際理解)</p>
2年	<p>[2学年の重点内容項目]</p> <p>(1) 様々な教育活動を通して思いやり、協調、やさしさ、生命の尊さ等の道徳的心情を育てる</p> <p>[2学年段階で配慮すべき事項]</p> <p>(1) 自己の役割と責任を自覚して、集団生活の向上に努める意欲を育てる</p> <p>(2) 互いに高め合い励まし合える友情を育てる</p>	<p>・道徳授業地区公開講座</p> <p>・田植え体験</p> <p>・体育祭 (自主・自立、向上心、友情・信頼)</p> <p>・白鷗祭 (思いやり、相互理解・寛容、集団生活の充実)</p> <p>・農村勤労体験学習、田植え体験 (礼儀、郷土の伝統と文化の尊重、自然愛護)</p> <p>・職場体験 (礼儀、社会参画、勤労)</p>
3年	<p>[3学年の重点内容項目]</p> <p>(1) 主体的に生きていく力を育てる</p> <p>(2) 相手の立場になって考える力を育てる</p> <p>(3) 様々な場面や機会をとらえて道徳的心情を育てる</p> <p>[3学年段階で配慮すべき事項]</p> <p>(1) 相手の立場を認め、助言や忠告を謙虚に受け入れ、自己の向上に生かそうとする態度を育てる。</p> <p>(2) 地域から国際社会にまで目を向け、社会に貢献しようとする態度を育てる。</p>	<p>・道徳授業地区公開講座</p> <p>・都内巡り</p> <p>・体育祭 (自主・自立、向上心、友情・信頼)</p> <p>・白鷗祭 (思いやり、相互理解・寛容、集団生活の充実)</p> <p>・アメリカ研修旅行 (集団生活の充実、我が国の伝統と文化の尊重)</p> <p>・上級学校訪問 (自主・自立、克己と強い意志)</p>

III 道徳の時間の指導方針・指導の工夫

(1) 指導方針

- ・年間指導計画に基づき、生徒や学級の実態に即して指導する。
- ・各教科、特別活動及び総合的な学習の時間等の関連を踏まえて指導する
- ・生徒一人一人が、自分の問題として受け止められるように指導する。

(2) 指導の工夫

- ・教科、特別活動の関連を深め、様々な場面で関連した指導を進める。
- ・道徳性を養い、判断基準を高めることで、社会的現実を照らし、よりよい生き方を主体的に選択し行動する力を養う指導を進める。
- ・様々な体験活動を通して、生徒が自ら道徳的意味に気づくように指導する。
- ・ICT機器を活用し、生徒の興味、関心を高めながら指導する。
- ・「心見つめて」「私たちの道徳」や副読本、資料等の活用を工夫し、指導の充実を図る。
- ・保護者、地域、関連諸機関との連携を深め、指導に役立てる。

教科名 道徳
 科目名 道徳
 対象 1 学年全員

I 学習到達目標

・生命の尊さを理解するとともに、自然を愛護し美しいものに感動する豊かな心と、正しく判断し自分の行動に責任をもつ態度育成する。また、集団の一員としての自覚と規範意識を高める。
 ・教師と生徒、生徒相互の人間関係を深め、広範な通学区域の様々な価値観に触れることにより、自分と異なる考え方を尊重する態度を育てる。また、人間としての生き方についての自覚を深めて、自己の人生を自ら切り拓いていく力を身に付ける。

II 授業の進め方(授業形態等)

- 1 道徳教育の全体計画に基づき、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動との関連を考慮しながら行う。
- 2 生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。
- 3 数値による評価は行わないものとする。

III 教科書・補助教材

教科書 「中学生の道徳 自分を見つめる1」 廣済堂あかつき
 補助教材 「私たちの道徳」 文部科学省、「心みつめて」 東京都教育委員会

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容		授業時数	備考	
		考 査	「学習指導要領」の学習内容			教科書等の学習内容
一 学 期	4		A 自主、自立、自由と責任	6		
	5		A 希望と勇気、克己と強い意志 A 自主自立、自由と責任 D 生命の尊さ D よりよく生きる喜び B 友情、信頼			1. この人生の主人公 2. 目標は小刻みに 3. 裏庭での出来事 4. あなたの「生きようとする力」 5. 偽りのバイオリン 6. アイツ
	6		B 礼儀 A 節度、節制 C 公平、公正、社会正義 D 自然愛護			7. 半分おとな 半分こども 8. 釣りざおの思い出 9. ヨシト
	7		A 向上心、個性の伸長 C 郷土文化の伝統と文化の尊重、国を愛する態度	10. あのハチドリのように 11. 木箱の中の鉛筆たち 12. アップルロード作戦		
二 学 期	9		D 生命の尊さ	8		
	10		C 遵法精神、公德心 C 我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度 B 思いやり、感謝 C 社会参画、公共の精神 A 真理の探究、創造 C 家族愛、家庭生活の充実 C 遵法精神、公德心			13. 曙号の死 14. 島耕作 ある朝の出来事 15. 音を宿す 16. 夜の果物屋 17. 加山さんの願い 18. ミスター・ヌードル 19. 美しい母の顔 20. 人に迷惑をかけなければいいのか?
	10		B 思いやり、感謝 B 友情、信頼 C 国際理解、国際貢献			21. 地下鉄で 22. 吾一と京造 23. 国際協力ってどういうこと?
	11		A 自主、自立、自由と責任 C 公正、公平、社会正義			24. ネット将棋 25. ある日のバッテリーボックス
	12		D よりよく生きる喜び C 勤労 D 生命の尊さ B 思いやり、感謝	26. 銀色のシャープペンシル 27. 午前一時四十分 28. 語り掛ける目 29. 旗		
三 学 期	1		A 希望と勇気、克己と強い意志	6		
	2		D よりよく生きる喜び C 家族愛、家庭生活の充実 B 相互理解、寛容 D 感動、畏敬の念			30. 終わりなき挑戦 31. よみがえった良心 32. ふたりの子供たちへ 33. 言葉の向こうに 34. ガジュマルの木
	3		D より良い学校生活、集団生活の充実			35. 二枚の写真
				35		
評 価			生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める。 「ワークシートの記入」をさせることにより、授業における理解度をはかる。 「授業内の発言」をさせることにより、授業における態度をはかる。			
			A 主として自分自身に関する事 B 主として人との関わりに関する事 C 主として集団や社会との関わりに関する事 D 主として自然や崇高なものとの関わりに関する事			